

# 組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：薬学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b>	
1)創薬科学科(4年制)のカリキュラムポリシーを策定する。 2)薬学科学年進行が終了することを受け、両学科の教育に関する多岐にわたる検証を実施し、改善目標を立案する。 3)学年進行終了後(平成24年度)のカリキュラム改訂に向けての準備をする。 4)薬学教育評価機構(薬学科)の第三者評価(トライアル)を受ける。 5)学部主催の卒業論文発表会(薬学科6年次生対象)を実施する。 6)創薬科学科の教育内容の更なる充実をはかる。 7)大学病院薬剤部と実務家教員の連携を強化し、実践的かつ機動的な薬剤師教育の充実を図る。 8)FD活動をより活発に展開し、更なる教員の意識向上に努める。	1)創薬科学科(4年制)のカリキュラムポリシーを策定した。 2)薬学科学年進行が終了することを受け、両学科の教育に関する多岐にわたる検証を実施し、改善目標を立案した。 3)学年進行終了後(平成24年度)のカリキュラム改訂に向けての準備をし、実施に向けての資料等を作成した。 4)薬学教育評価機構(薬学科)の第三者評価(トライアル)を受けた。 <b>多くの評価項目において高い評価(A判定)を受け、薬学教育基準に合格していると総合判定された。</b> 5)学部主催の卒業論文発表会(薬学科6年次生対象)を実施した。 6)創薬科学科の教育内容の更なる充実をはかった。 7)大学病院薬剤部と実務家教員の連携を強化し、実践的かつ機動的な薬剤師教育の充実を図った。 <b>実務家教員の育成を目指し、基礎系助教の3名を臨床教員の指導下に組織替えをした。全国で初めてとなる「救急薬学」分野を開設した。</b> 8)FD活動をより活発に展開(FDフォーラムの開催)し、更なる教員の意識向上に努めた。
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>②研究領域</b>	
<b>②-1 目標</b>	
1)薬学部棟耐震改修終了を受け、新施設での共同機器室等を整備し学生教員のための研究環境を整える。 2)価値の高い研究業績を挙げそれをホームページ等で広報する。 3)科研費等の外部資金獲得に努める。 4)研究遂行におけるコンプライアンスを遵守する。	1)薬学部棟耐震改修終了を受け、新施設での共同機器室等を整備し、学生教員のための研究環境を整えた。 <b>法整備も含めた共同機器および共同機器室の「あり方・使い方」を明確化した。</b> 2)価値の高い研究業績を挙げそれをホームページ等で広報した。 3)科研費等の外部資金獲得に努めた。 <b>若手教員の申請書は、執行部で添削を行った。</b> 4)研究遂行におけるコンプライアンスを遵守(FDフォーラム、メールで周知)した。
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	
<b>③-1 目標</b>	
1)薬剤師や一般人を対象に薬学公開講座を開催し、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上に努める。 2)高校生や一般人を対象に薬学公開講演会を開催し、薬学に関する社会の認識を高める。 3)高校生や一般人に薬用植物園を公開し、社会の薬用植物への関心や理解を高める。 4)大学訪問や高校への出前講義等の高大連携を積極的に推進し、高校生の薬学教育への理解や関心を高める。 5)薬剤師会等と連携し、薬剤師の生涯学習に貢献する。	1)薬剤師や一般人を対象に薬学公開講座を開催し、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上に努めた。 2)高校生や一般人を対象に薬学公開講演会を開催し、薬学に関する社会の認識を高めた。 3)高校生や一般人に薬用植物園を公開し、社会の薬用植物への関心や理解を高めた。 4)大学訪問や高校への出前講義等の高大連携を積極的に推進し、高校生の薬学教育への理解や関心を高めた。 5)薬剤師会等と連携し、薬剤師の生涯学習に貢献した。
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>【総括記述欄】</b>	
平成23年度は、新棟の増設を含む薬学部本棟の耐震改修が終了するとともに、新学部長の指揮下、新執行部体制で精力的に学部改革を実行した。この形而上の上下を問わない変容は、教育・研究・運営の全般に及び、その成果は、まさに、 <b>新生薬学部の開始年</b> にふさわしいものであったと考える。	